

調査報告

わが国における女性呼吸器科勤務医の勤務環境と課題

木村 弘<sup>\*1</sup> 駒瀬裕子<sup>\*2</sup> 國近尚美<sup>\*3</sup> 別役智子<sup>\*4</sup> 山谷陸雄<sup>\*5</sup>  
 梅 博久<sup>\*6</sup> 橋本 修<sup>\*7</sup> 貫和敏博<sup>\*8</sup> 永井厚志<sup>\*9</sup>

はじめに

女性勤務医の勤務環境整備は、診療科を問わず、病院における医師確保にとって重要な課題である。近年、各医療圏の中核病院に勤務する医師の不足が問題となっており、日本呼吸器学会将来計画委員会がこれまでまとめた施設調査でも、呼吸器科医師の地域間の偏在が明らかになっている<sup>1,2)</sup>。呼吸器科医師不足の原因として、過酷な労働に見合わない待遇などへの不満が挙げられ、離職する勤務医が増えている現状がある。また、増加している女性医師にとっても、就業を継続するための環境が呼吸器科診療においても未整備であると考えられる。

日本呼吸器学会では呼吸器科医師を増加させるための改善策を作成中である。改善案作成に当たり、現時点における呼吸器科診療の問題点を明らかにするために、日本呼吸器学会将来計画委員会では、平成 21 年秋に、呼吸器科勤務医

の勤務状況に関する調査を実施した。その一環として、女性勤務医の勤務環境調査を行った。

I. 対象と方法

平成 21 年秋に実施した「本邦における呼吸器科勤務医の勤務環境の現状」の調査の一環として、女性支援策に関して各施設の施設長への調査を行った(施設長調査)。調査の対象は、日本呼吸器学会認定施設および関連施設の施設長とし、調査期間は平成 21 年 9~10 月であった。

さらに、国内の施設に勤務する日本呼吸器学会会員を対象として調査した(会員調査)。主な内容は、1)平日・夜間・休日勤務時間、当直・休日日直時間、拘束待機時間、休日・夜間死亡患者看取りなどの状況と報酬、2)夜間・当直勤務、休日・夜間死亡患者看取りの翌日の勤務状況、3)睡眠、疲弊度、労働条件の満足度と不満点、などである。調査期間は平成 21 年 10~12 月であった。

Present Working Circumstances and Issues in Female Doctors of Respiratory Department Employed at Hospitals and Clinics in Japan

<sup>\*1</sup>Hiroshi Kimura : Second Department of Internal Medicine, Nara Medical University, <sup>\*2</sup>Yuko Komase : Department of Respiratory Medicine, Yokohama-City Seibu Hospital, St. Marianna University School of Medicine, <sup>\*3</sup>Naomi Kunichika : Second Department of Internal Medicine, Yamaguchi Red Cross Hospital, <sup>\*4</sup>Tomoko Betsuyaku : First Department of Medicine, Hokkaido University Graduate School of Medicine, <sup>\*5</sup>Mutsuo Yamaya : Department of Advanced Preventive Medicine for Infectious Disease, Tohoku University Graduate School of Medicine, <sup>\*6</sup>Hirohisa Toga : Department of Respiratory Medicine, Kanazawa Medical University, <sup>\*7</sup>Shu Hashimoto : Division of Respiratory Medicine, Nihon University School of Medicine, <sup>\*8</sup>Toshihiro Nukiwa : Department of Respiratory Medicine, Tohoku University Graduate School of Medicine, <sup>\*9</sup>Atsushi Nagai : First Department of Medicine, Tokyo Women's Medical University

<sup>\*1</sup>奈良県立医科大学教授(第二内科)、日本呼吸器学会理事、同将来計画委員会委員長、<sup>\*2</sup>聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院准教授(呼吸器・感染症内科)、<sup>\*3</sup>山口赤十字病院第 2 内科部長、<sup>\*4</sup>北海道大学大学院准教授(呼吸器内科)、<sup>\*5</sup>東北大学大学院教授(先進感染症予防学)、日本呼吸器学会将来計画委員会副委員長、<sup>\*6</sup>金沢医科大学教授(呼吸器内科)、前日本呼吸器学会将来計画委員会副委員長、<sup>\*7</sup>日本大学医学部教授(呼吸器内科)、日本呼吸器学会理事、<sup>\*8</sup>東北大学大学院教授(呼吸器内科)、前日本呼吸器学会理事長、日本呼吸器学会理事、<sup>\*9</sup>東京女子医科大学教授(第一内科)、日本呼吸器学会理事長

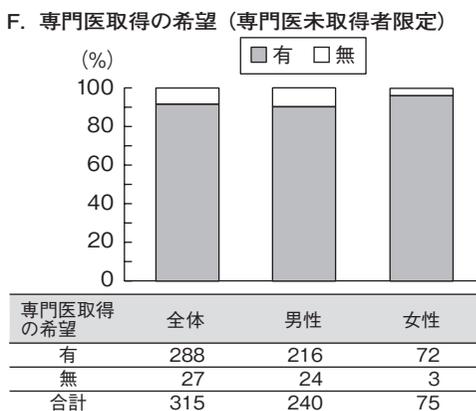
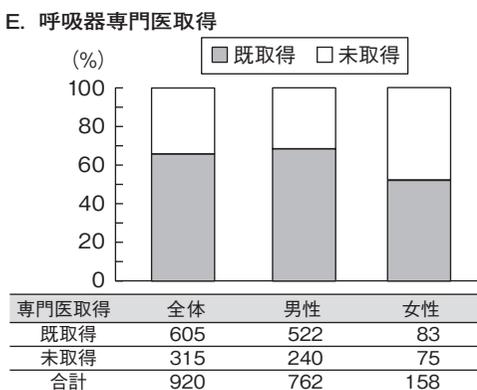
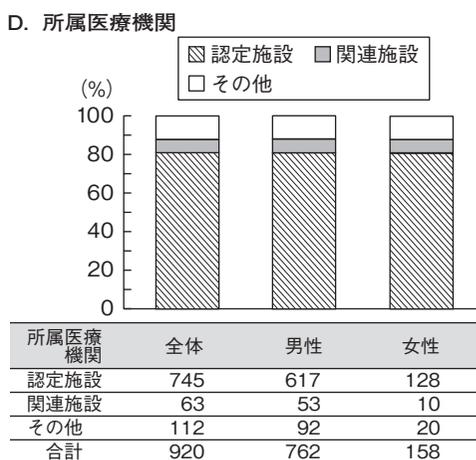
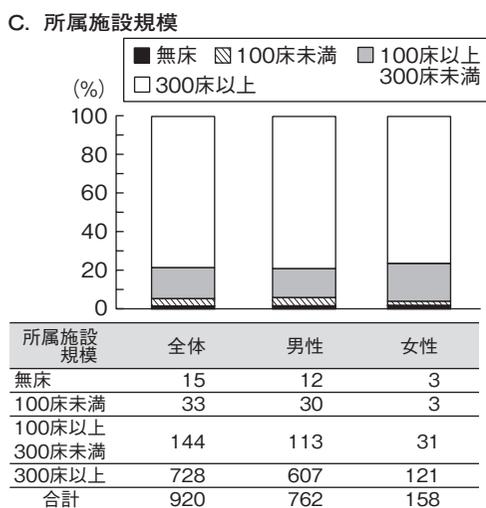
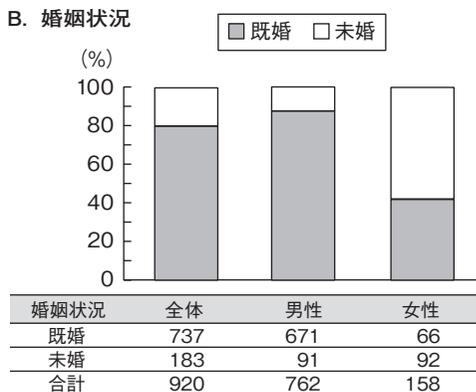
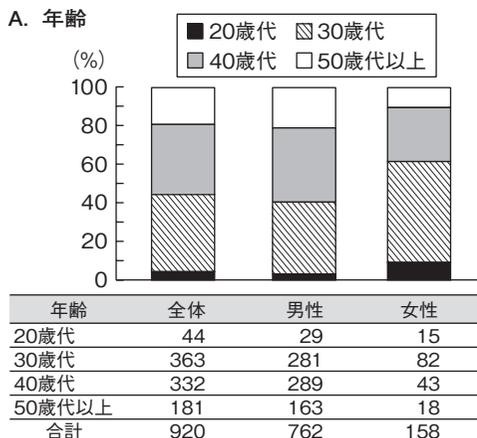
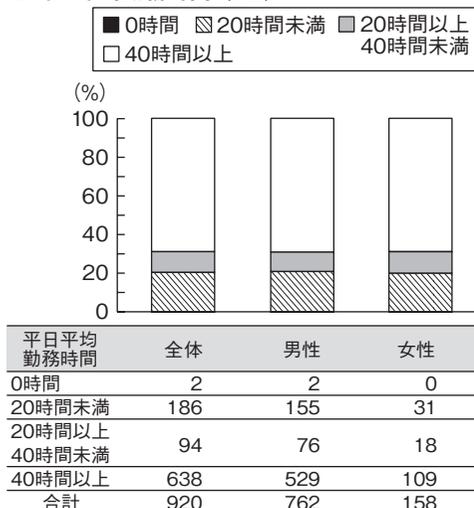
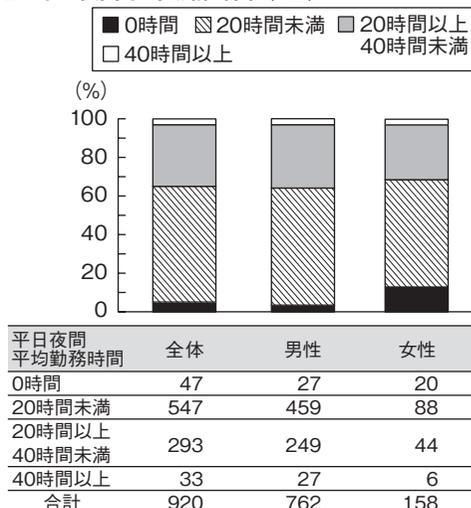


図1 会員調査に回答した勤務医の全体および男女別年齢分布 (A), 婚姻状況 (B), 所属施設規模 (C), 所属医療機関 (D), 呼吸器専門医取得状況 (E), および未取得者の専門医取得希望の割合 (F)

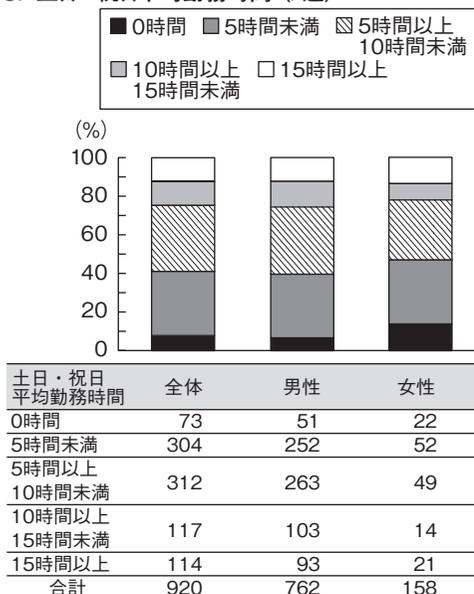
A. 平日平均勤務時間（/週）



B. 平日夜間平均勤務時間（/週）



C. 土日・祝日平均勤務時間（/週）



D. 平均当直・休日日直回数（/週）

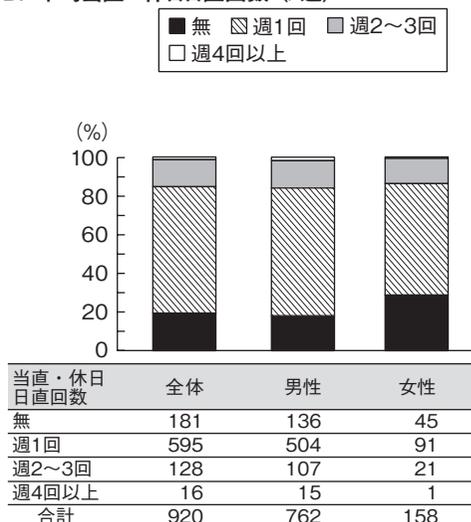


図2 会員調査に回答した勤務医の全体および男女別の週当たり平日勤務時間（A），平日夜間勤務時間（B），土日・祝日平均勤務時間（C），および当直・休日日直回数（D）

## II. 結果

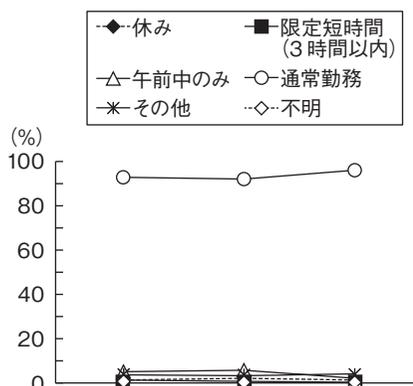
### 1. 会員調査

#### (1) 女性呼吸器科勤務医回答者の概要

回答した呼吸器科勤務医数総数は920名で、女性は158名17%であった。回答のあった女性呼吸器科勤務医の年齢構成は20歳代15名10%、30歳代82名52%、40歳代43名27%、

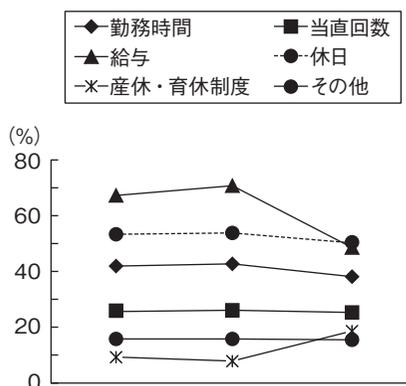
50歳代以上18名11%であった(図1A)。既婚者66名42%、未婚者92名58%であった(図1B)。勤務施設(=病院および診療所)規模は300床以上121名77%、100床以上300床未満31名20%、100床未満3名、無床3名であった(図1C)。138名87%は日本呼吸器学会認定施設・関連施設勤務であった(図1D)。男性勤務医回答者に比べて30歳代および未婚の女

A. 当直勤務の翌日勤務状況  
(当直勤務あり限定)



当直勤務の翌日勤務状況	全体	男性	女性
当直勤務あり	747	629	118
休み	10	9	1
限定短時間 (3時間以内)	2	2	0
午前中のみ	36	34	2
通常勤務	691	578	113
その他	21	17	4
不明	1	1	0

B. 勤務条件に「満足していない」場合の不満な点  
(複数回答項目)



不満な点	全体	男性	女性
満足していない	714	599	115
勤務時間	300	256	44
当直回数	185	156	29
給与	480	424	56
休日	381	323	58
産休・育休制度	66	45	21
その他	112	94	18

図3 会員調査に回答した勤務医の全体および男女別の当直翌日の勤務状況 (A), 勤務条件に不満な点 (B)

性勤務医の回答が多かった。施設規模に男女差はなかった。日本呼吸器学会専門医の取得者は83名53%と男性勤務医(69%)に比較して低率であった。未取得女性勤務医75名の大半72名(96%)は専門医資格の取得を希望しており、男性勤務医の専門医取得希望率(90%)を上回っていた(図1E, F)。また、未取得女性勤務医における専門医取得希望は大学病院では100%、一般病院では93%であった。

## (2) 女性呼吸器科勤務医の勤務環境と

### 加算報酬の支払い状況

女性呼吸器科勤務医の平日勤務(月曜日～金曜日の5日間)は1日8時間未満が31%、8時間以上の勤務が69%であった(図2A)。87%が平日の夜間勤務をし、週20時間以上40時間未満44名28%、40時間以上の長時間夜間勤務6名4%であった(図2B)。86%が土日・祝日に勤務し、週10時間以上15時間未満9%、15時間以上13%であった(図2C)。当直・休日日

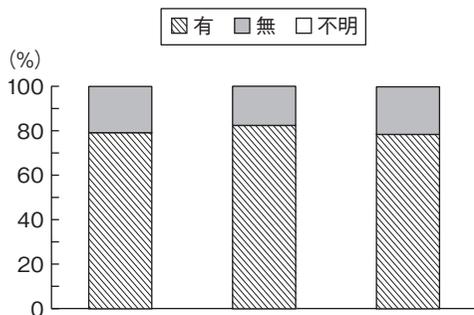
直勤務者は72%で、週1回が58%、週2～3回が13%、週4回以上が1名であった(図2D)。79名50%に拘束待機時間があり、130名82%が夜間死亡患者の看取りを担当していた。「当直勤務の翌日勤務あり」が118名75%で、大半は通常勤務であった(図3A)。「夜間死亡患者看取りの翌日勤務あり」の全員(130名、100%)が通常の翌日勤務であった。

加算報酬に関して、「平日夜間勤務の加算あり」55名35%、「休日勤務の加算あり」46名29%、「拘束待機時間に対する報酬の支払いあり」27名17%、「休日・夜間死亡患者看取りに対する報酬の支払いあり」19名12%であった。大学病院と一般病院、地域間、男女間に差はなかった。

## (3) 疲弊度、および労働条件に対する満足感、仕事に対する満足度など

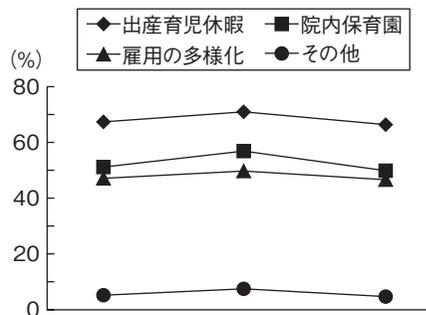
睡眠時間は8時間以上が1%、6～7時間台が28%、4～5時間台が67%、4時間未満が4%

### A. 女性への支援策



女性への支援策	全体	大学病院	一般病院
有	453	87	366
無	120	19	101
不明	2	0	2

### B. 女性への支援策 (詳細)



女性への支援策 (詳細)	全体	大学病院	一般病院
施設数	573	106	467
出産育児休暇	385	75	310
院内保育園	293	60	233
雇用の多様化	271	53	218
その他	30	8	22

図4 施設長調査による女性支援策の実施状況(A), および施設の実施した女性支援策の詳細(B)

で、男性に比べて4~5時間台の割合が高く、6~7時間台の割合が低かった。寝不足との回答、および勤務に対する疲弊感が、共に133名84%で、男女差はなかった。

現在の労働条件に対する満足感は、一般病院では女性34%、男性25%、大学病院では男女共16%であり、調査全体としては、女性27%、男性21%で満足感ありとの回答であった。一方、仕事内容に対する満足感は、一般病院では女性59%、男性57%、大学病院では女性42%、男性50%であり、全体としては、女性53%、男性54%で仕事内容に対する満足感ありとの回答であった。不満足の内容は、休日58名37%、給与56名35%、勤務時間44名28%、当直回数29名18%、産休・育休制度21名13%であった(図3B)。この1年間において労働条件の改善があったとの回答は40名25%であった。改善項目は給与17名、当直回数12名、勤務時間8名、産休・育休制度5名などであった(複数回答)。

### 2. 施設長調査

回答した施設(=病院)は575施設(本学会認定施設および関連施設の72%)であった。大学

病院が106施設、大学病院以外の施設が469施設であった。施設規模は、100床未満2%、100床以上300床未満20%、300床以上78%であった。女性への支援策を実施している施設は453施設79%であり、一般病院では78%であり大学病院の82%を下回っていた(図4A)。支援策としては出産育児休暇が67%、院内保育園51%、雇用の多様化47%などであった(図4B)(複数回答)。

### III. 考察

わが国の医療現場においては、呼吸器内科医の社会的ニーズの高まりと不足が問題となっている。そのなかにおいて、医学部女子学生や女性医師の割合は、年々増加しており、医師国家試験合格者のうち女性が35%近くを占めるようになってきた。しかし女性がフルタイムで働けなくなることにより離職者も増加し、この問題が呼吸器診療における医師不足に拍車をかけている現状がある。日本呼吸器学会における本調査は、これらの現状を鑑み、呼吸器診療に携わる女性医師、また目指そうとする女性医師に対する支援策について男女を問わず共に考え、

対策を講じようとの意図で実施された。

今回行った会員調査の解析結果は以下のよう  
にまとめられる。

1. 女性では男性に比べ20～30歳代の割合  
が高く、これは特に大学病院において顕著で  
あった。

2. 女性では男性に比べ呼吸器専門医の取得  
率は低かった。一方、専門医未取得者におい  
ては女性のほうが専門医の取得希望者が多  
く、これは特に大学病院において顕著であ  
った。

3. 平日の平均勤務時間と平日の夜間平均勤  
務時間に関しては、男女共、平日の勤務が午  
前1時に及ぶ医師が5%程度みられた。また、  
午後9時から午前1時にまで及ぶ医師が一  
般病院で男女共25%、大学病院では女性  
でも40%程度に認められた。

4. 労働条件に対する満足度、不満点に関し  
ては、「何らかの女性医師への支援策を講じ  
ている」との施設長からの回答は、大学病  
院で82%、一般病院で78%と高率であ  
ったものの、労働条件に満足しているとの  
会員からの回答は、一般病院では女性の  
34%、男性の25%、大学病院では男  
女共20%弱であり、施設(長)サイ  
ドからの施策が、まだ会員には十分には  
行き渡っていない、あるいは支援策を積  
極的には利用しにくい職場環境が多いこ  
とが示唆された。また、労働条件に対す  
る不満感(不満な点)についての指摘は、  
一般病院では休日、給与、勤務時間、大  
学病院では給与、休日、勤務時間、産  
休・育休制度であった。不満な点で、特  
に女性医師が男性医師に比べて目立っ  
たのは、一般病院では休日、大学病院  
では産休・育休制度であった。

5. 労働条件の満足感と比較して仕事内  
容に対する満足感が高かった。ただし、  
仕事内容の満足感是一般病院では男女  
共約60%、大学病院では女性では  
42%にとどまった。また女性は男  
性と比べて、労働条件の満足感に対  
する仕事内容の満足感の比率が一般  
病院、大学病院共、

低かった。

6. 所属医療機関で、この1年間にお  
ける労働条件の改善があったとの回答  
は、一般病院では男女共25%、大  
学病院では女性の25%、男性の  
20%弱で認めた。改善内容は、一  
般病院では給与、当直回数など、大  
学病院では給与、当直回数、勤務  
時間であった。労働条件の改善に  
関して、特に女性医師の回答で目  
立った点は、一般病院では当直回  
数、大学病院では勤務時間が挙げ  
られた。

7. 施設長サイドからの支援策に関  
する自由記載からは雇用の多様化が  
基本姿勢としてみられた。つまり、  
短時間勤務正職員制度、週3～4  
日勤務・日勤のみの勤務、拘束待  
機免除、当直免除、育児休暇中の  
給与支給、育児短時間勤務制度、  
ジョブシェアリング制度導入、女  
性医師支援プログラムによる復職  
支援などの具体例が挙げられたも  
の、実際の施行施設は限られたも  
のであった。

今回の調査における女性勤務医回  
答者の年齢構成割合は、20歳代15  
名10%、30歳代82名52%、40  
歳代43名27%、50歳代以上18  
名11%であった。日本呼吸器学会  
の女性会員の年齢構成割合である  
20歳代12%、30歳代47%、40  
歳代27%、50歳代以上14%と  
比較すると、20歳代ではわずかに  
低く、30歳代ではやや高かったも  
の、その年齢構成に大きな差異は  
なく、年齢のバイアスはあまりか  
かっていると考えられた。

## おわりに

今回の施設長調査からは、「何らか  
の女性医師への支援策を講じてい  
る」との回答は、大学病院で82%、  
一般病院で78%に達したものの、  
女性医師からの回答をみると、そ  
の効果は不十分であることが判明  
した。女性医師が、呼吸器専門医  
を取得後も、生涯にわたり、志を  
もち専門とできる呼吸器病学、呼  
吸器臨床の実践を目指せる環境  
整備が早急に実施されることが急

である。

謝辞：本調査にご協力いただきました日本呼吸器学会将来計画委員会の磯部 威，長内 忍，川山智隆，佐野博幸，高梨信吾，滝口裕一，巽 浩一郎，中村洋一，平井豊博，山口悦郎の各先生方に感謝申し上げます。

#### 文 献

- 1) 木村 弘，榎 博久，山谷睦雄他：わが国における呼吸器診療の現状と問題点. 日医雑誌 2009 ; 138 : 984-

988.

- 2) Kimura H, Toga H, Yamaya M, *et al* : Current situations and issues in respiratory medicine in Japan. *JMAJ* 2010 ; 53 : 178-184.

---

受付日 平成 22 年 9 月 16 日

連絡先 〒634-8522 橿原市四条町 840  
奈良県立医科大学内科学第二講座  
木村 弘